

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500613		
法人名	(有)もみじ		
事業所名	グループホーム もみじの里		
所在地	福岡県宮若市上大隈675番地1		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果確定日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームも8年を過ぎ、入居者のADLも低下してきているが、開設当初のホームの理念でもある「どんどん地域に出て行こう」をスローガンに今月も月に2回のドライブ、外食等を実践している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一度は立ち枯れた園庭のもみじは、地域住民の手助けや助言で、生き生きとした青葉を茂らせ、ホーム名称のもみじの里の風情を漂わせている。周辺に住宅が増え、当たり前のようにホームに引っ越しの挨拶に見えたり、開設当初からの近隣との付き合いが自然体で継続している。そして、公民館での映画鑑賞会の参加や3年に一度のもみじ祭りで、地域との交流が深まりつつある。毎月外出日は2回と決め、その折のスナップ写真は、家族のお持ち帰りを自由にして、家族との距離を広げず連携を重視した支援をしている。また、職員各々の生活体験や介護技術を活かした生き生きと就労できる運営で、理念にある「笑顔をのせて そっとよりそい暖かな共同生活をさせていただきます。」の実践が継続しているホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム もみじの里**

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会に参加する事で、地域との交流を蜜に、している。 管理者と職員は理念の唱和をし、共有し、介護方針や実践に繋げる	法人の理念の家族としてを基に、暖かな共同生活をおくる介護理念を作成し、玄関やリビングに掲示している。入居者の穏やかで、活気のある日常生活から理念の実践が窺える。	ホームの理念を共有する機会を設け、法人理念に基づき作成されたことも併せて周知されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会を通して地域の交流会等に参加している ・自治会会議(組長会議) ・お花見等	公民館での映画鑑賞会に参加し、地域と積極的に関わりを持っている。入居者が離苑した際は、馴染みの商店が一時保護し、ホームに通報していただいた。3年に一度のもみじ祭りは近隣住民や家族と盛大に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上大隈地区での老人会の会合などで、事業所のあり方などの説明をした事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は適正なメンバーで、隔月に開催している、ホーム運営や行事の報告、当日の意見など詳細な議事録を整備している。推進員のメンバーに日頃アドバイスを頂き、大いに運営の参考にしている。	会議の開催日を第二水曜日に定例化したり、運営推進会議の案内に議題を添付し、参加しやすいように取り組んでいる。議事録は行政に提出している。公民館での映画鑑賞会やお花見等の地域の情報をいただき、参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者は、運営推進会議のメンバーとして事業所のケアサービスの取り組み等を伝え、協力関係を築いている。自己評価及び、外部評価の結果を、宮若市の介護保険課に届けている。	地域包括支援センター主催の成年後見制度の研修会に参加したり、市内同業者協議会であるGHみたわかの研修会に講師の派遣を依頼している。入居状況の報告や相談を日頃から行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、研修会にも参加して、日常的に身体拘束をしないケアを実施している。	入居者の離園による事故を防止するために、ホームの外フェンスのセンサーの設置や通報の契約を警備会社と結んでいる。日頃から鍵をかけないケアを実践しており、職員は入居者の言動や行動に留意して、見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ブロック研修や他の勉強会に積極的に参加し、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隔研修に参加し、参加者はスタッフ全体会議にて報告。推進会議にも上げ、全体で活用できるようにしている。入居者及び家族へも、説明している。	権利擁護に関する研修会に参加し、伝達講習をしている。資料を整備し、入居契約時に説明しているが、現在、活用されている入居者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に契約等について、不安や疑問がないように十分な説明を行いつている。マラ不明な点においては、理解して頂けるよう努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族へ、入居者の近況報告を蜜にしている。特に不満の申し立てはないが、第三者委員会を立ち上げ、発生時は速やかに対処する。	家族会はないが、家族の訪問時に管理者とゆっくりと対話する時間を設け、入居者の暮らしぶりを伝えて意見交換をしている。廊下の壁には外出の際の写真出張し、家族が自由に持ち帰りでできる写真コーナーを作っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体の事業で、スタッフに意見や提案をしてもらえる機会を多く設け、全体で話し合えるようにしている。	毎月の職員ミーティングで、意見や要望を話し合っている。夜勤者の意見でベッドからの立ち上がり不安がある入居者にセンサーアラームを導入したり、居室をトイレの近くに移している。また、職員のアイデアで、きれいな手袋をすると皮膚の湿疹を触らなくなった入居者がいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境を把握し、仕事がしやすく、やりがいがある様な職場作りに取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や経験にとらわれることなく専門職として、高齢者介護に適した人材を採用している。職員の能力を発揮してもらう為に、研修や会議に積極的に参加できる機会を設けている。	現在、30歳代から70歳代の職員が勤務している。子育て中の職員は夜勤はしない等、本人の希望に添ったシフトを作成し、食事代の補助がある。管理者は職員と個別に食事の機会を設け、ストレス発散に配慮している。防災研修やGHみやわか、グループホーム協議会などの外部研修にも積極的に参加を支援したり、資格取得に向けた支援も行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修に参加し、行政からのパンフレットも提示している。身体拘束や虐待防止マフクおかけんニユアルも作成している。	近隣の他市で開催された障がい者の和太鼓演奏会に入居者と出かけている。入居者一名の独り言が演奏の邪魔になるかと気になったが、主催者が気持ち良く応じてくれ、演奏後の写真撮影や握手などが出来て、職員とともに人権に関して考える良い機会となった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会Fブロックや、GHみやわかの研修に参加したり、ホーム内の勉強会も毎月実施している。職員の悩み等は管理者や同僚で対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市は、GHみやわかを立ち上げ、GH間同士の交流や勉強会を毎月実施し、参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者それぞれに、主に0世話する担当スタッフを位置づけ、常に話しやすい環境を整え信頼関係を、を作り、相談など気楽に出来るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月、入居者のご家族の面談の時間を作っている。(事前に訪問日程のうちあわせをしている)		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の要望に重点を置き、必要とされている支援を出来るだけスムーズに行なえるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居される以前の生活暦を知り、それに合った会話をしている。得意な事は手伝ってもらっている。スタッフはいつも笑顔で接し、支え励ます姿勢をとっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化や困った事があれば、すぐに連絡して対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、お友達への電話や、訪問もしてもらっている。	毎年参加していた「兄弟寄り」に体調を崩し、今年は出向くことができなくなり、他の姉妹にホームに出向いてもらえるように調整した入居者もあり、本人の励みになっている。昔の同僚が訪ねてくる入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここの入居者の方々は皆仲がよく、孤立している人はなく、出来ない事を出来る人がしてくれたりして、入居者同士が助け合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為、退去になった人は、入院している病院に見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望はできるだけ聞くように、プランをあげている。	家族来所時に、家族の意向を聞き取るように留意している。なかなか、本人の思いが引き出せない入居者は、ミーティングで職員の気づきを出し合っている。アセスメントシート of 生活歴の記録が入居のみの情報で上書きされていない。	日頃の会話から紐解ける生活史や趣味意向が他の職員も共有できるように、アセスメントシートに生活歴の欄を設けていただきたい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からききとりを行い、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な時間はきまっているが、日中の過ごし方は隔個人それぞれにあった過ごし方をされている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフや関係者と担当者会議を行い、介護計画を作成している。それに沿って定期的にモニタリングをおこなっている。	担当職員が作成した原案をミーティングで意見交換し、計画を作成している。体調の変化に合わせて、計画の見直しを行っている。更新時などで事前に家族の意向を聞き取っているが、担当者会議に家族の参加の記載がない。	担当者会議にできるだけ家族の参加をお願いし、やむを得ず不参加であれば、担当者会議録に聞き取った内容や日付けの記載をお願いしたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護日誌・健康チェック表をつけている、各個人のカルテを作成試験さ結果や服薬状況をつづっている。状況の変化があれば、その都度カンフレンスを行い、ケアプランへ反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	玄関口には「ご意見箱」を設置し、ホーム内には苦情解決制度のポスターを貼っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々が中心に生活できるよう医療・地域・ボランティアの整備を充実させ、支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターがいて、月に2回往診をお願いしている。他に必要なら外来受診や定期以外の往診もしてもらっている。眼科・歯科・皮膚科などの受診も付き添っている。	受診支援を細やかに実施しており、その後の家族への報告も行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月1回以上のスタッフミーティングに全員参加し、個々に応じて適切に受診等ができるように、情報交換をおこない、共有している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書を必ず病院へ渡し、ホームでの状況を伝えている。入院中もスタッフが時間を見つけて、お見舞いに行くようにしている。ドクターやナースからも経過は聞いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度、ターミナルケアの実施者は1名。ケアにあたり、ご家族との終末期にむけた、話し合いを蜜にしている。終末期の対応に関する意向確認書を作成し、同意を得ている。	グループホーム協議会主催のターミナルケアの研修会に参加している。夜間帯は職員は一人のため不安はあるが、看護師の資格を持つ管理者がフォローを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、スタッフは日々確認してもらっている。GHみやわか研修にも参加し、訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に避難経路図を提示している。防災訓練も年2回行っている。	職員は福岡市防災センターでの災害体験で、日頃の防災意識が強くなった。3日程度の食料その他の備蓄を行っている。ホームでの訓練の際には、非常ベルを鳴らして地域に周知している。今年は、単独の防災訓練だけでなく、GHみやわかで他のグループホームとの防災訓練も行った。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権やプライバシーを尊重したケアを実施し、入居者の意向に沿うよう根気強く対応している。	誇りやプライバシーに配慮し、さりげない支援をしている。入居時、「どのように呼んで良いか」本人、家族に尋ねている。元教師の入居者は「先生」と呼ばれると動きがスムーズである。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の大半に於いて自己決定が出来るよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで食事が出来るよう見守りをしている。入浴も一応順番は決めてはいるが、希望があれば変更している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回散髪をしに来てもらっている。希望があれば、毛染めをスタッフが行なっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えると、入居者の希望を聞き食事を楽しくめるように、レパートリーを多くしている。配膳や後片付けの分担も自然に出ており、職員も伴食しながら、各入居者のペースに合わせて支援している。	外食の機会も多く、入居者の楽しみの一つである。お正月には、管理者が抹茶をたててもてなし、季節感が感じられるように支援している。食事の途中で食べ物であそび始める入居者に、ひと品ずつ目の前に置くことで、最後まで一人で食事ができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックを、毎日記録し、1日の食事量や水分量のチェックをしている。又入れ歯での摂取チェックで、きざみや粥食など各自に応じた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食、入眠時に歯磨きや義歯洗浄が行なえるように歯ブラシや洗浄道具を用意している。歯磨きは自力だが、介助の必要な方には、援助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は個々にあった声かけを行い、トイレで自力で行なえる様支援している。フオーレ留置の方は、尿通良好か注意し尿量のチェックを行なっている。	入居前にポータブルトイレを使用していた入居者も、誘導でトイレでの排泄ができるようになってきている。日中、布パンツで過ごす入居者もあり、身体状況にあわせて、オムツや紙パンツも使用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日バイタルチェック時、便通確認をしている。便秘の方は緩下剤を服用してもらっている。水分摂取、運動、食事の工夫など行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午後からで、一応順番はきめているが、体調によって前後する事もある。入居者の体調によりシャワー浴や清拭等の場合もある。	月・金の週2回、入浴支援が基本であるが、シャワー浴を柔軟に取り入れている。入浴拒否のある方も、管理者の巧みな声掛けや時間をずらすことで対応できている。夏場は、外出後シャワー浴を行ったりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠剤を使用している入居者はいるが、夜によく休めるようレクリエーションや程よい運動などで、出来るだけ日中は、覚醒するようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は誤薬を防止する為、名前を明記し、朝・昼・夜・眠前と分けて保管し食事毎、配薬している。各入居者のカルテに内服の効能・副作用の文献を綴じ込み、いつでもスタッフが確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の楽しみに応じ、犬の世話・花の手入れ・草むしりなど、入居者をお願いする事で役割作りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	つきに1回から2回ほどの外出をしている。お弁当を作り持参したり、回転寿司での外食をや、地域の催し物にも出かけている。家族が買い物にも連れ出してくれる。地区の博物館・資料館へも行く。	毎月2回の外出日を決め、外出先の下調べ等を職員が交代で担当し、プラネタリウムや公園、お花見など、様々な施設に出かけている。資料館の丁寧な説明に聞き入る入居者もいる。また、家族と一緒に自宅や買い物、食事に出かける入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚のできる入居者には、1000円から、5000円程度を管理して頂き、買い物では、入居者の支払いを支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に手紙を書く事はでき、希望があれば、いつでも電話を掛けて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの園庭には季節の花や野菜を植え、ホーム内でも季節の移り変わりを実感できる様、壁の絵や、外出時の写真等を展示し、工夫している。	ホーム横の桜や園庭のもみじは、近隣の方の手助けや助言などの協力を得ながら成長している。玄関にはもみじの落ち葉で作った額縁がホームの理念を表現しているようにも感じ取れる。外出で撮ったスナップ写真は、家族のお持ち帰りを自由に行っている。食後はテレビ周りのソファで入居者同士が談笑する姿が印象的であった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの4箇所ソファを設置し、各自その時の雰囲気や座る場所を移動できるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に持ち込まれるものには、概ね制限はなく、ご本人が使い慣れた物を持ち込んでいただいている。仏壇の持ち込みも可能である。	入り口には色違いの暖簾と入居者のプロフィールが書かれた表札替わりの額縁が設置されている。作り付けのクローゼットに荷物がきちんと整理され、愛用の家具などが持ち込まれ、家族の写真等を飾り、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは勿論であるが、廊下が一直線で長く、手摺りがリハビリバーの代わりとなり、歩行訓練などに役立っている。		